

科目名	幼児の表現				担当	吉澤 俊・今井 香織		
形態	講義	単位数	1	開講時期	1 年前期	実務経験	義務・高校での教諭経験	
必修	卒業：必修 幼免：必修				ナンバリング	Y1204	DPとの関連	2
授業概要	<p>「表現とは何か？」をテーマとし、以下について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が環境との関わりを機に五感を通じた認識を経て「表現」に至るプロセスの多様性 ・幼児の様々な表現のあり方とその受容、および、より発展的な表現のための援助 ・「表現」の背景にある 							
到達目標 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」の意味を理解する ・幼児の様々な発現を見逃さない視点の持ち方を知る ・幼児期の表現活動を支援するための基礎知識と、それを現場での教材作成などに援用するセンスを身に付ける 							
授業計画	回	内容						
	1	ガイダンス	授業概要の詳細な説明と質疑応答					
	2	「表現」を考える-1	「表現」について現段階での個々の考えを探る（レポート作成）					
	3	「表現」を考える-2	「幼稚園教育要領」表現領域の読解と考察					
	4	「表現」を考える-3	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」表現領域の読解と考察					
	5	表現の多様性	幼稚園での事例をもとに、子どもの表現の多様性を考察する					
	6	自身の行動分析	自身の行動に含まれる「表現」について考察する					
	7	「表現」を考える-4	第2回で作成したレポートの見直し					
	8	レポート提出に向けて	1～7回のまとめとレポート作成ガイダンス／質疑応答					
	9	「表現」を考える-5	幼児の「表現」における「造形」と「音楽」					
	10	「表現」を考える-6	「行為」としての「表現」					
	11	「表現」を考える-7	「共感」することの意味					
	12	「表現」を考える-8	「自己肯定感」と「表現」					
	13	「表現」を考える-9	特別支援教育と「表現」					
	14	「表現」を考える-10	なぜ「表現」をするのか考える					
	15	レポート提出に向けて	授業を通しての学び、疑問点について考える					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現」に関する多面的理解ができたか ・「表現」に関する理解にもとづき、幼児の活動への効果的な援助につき考察できるようになったか ・自身の「表現」についての洞察と、それにもとづく表現方法を積極的に模索できたか 							
評価方法	授業態度 20% 1～8回授業にもとづくレポート 40%、9～15回授業で制作した作品とレポート 40%							
フィードバック 方法	レポートは評価後に返却する							
アクティブ ラーニング	グループワーク、PBLに関する演習							
教科書	平成 29 年告示の「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領」（チャイルド社）							
参考書	必要に応じて指示する							
履修条件	自身を含めた人間観察の目を普段から養っておくこと 文学・音楽・美術・演劇など、多様な芸術表現に接する機会を持つておくこと							
授業外学習	他授業における記述や論述の機会を大切にし、十分な考察にもとづく自己表現の練習をすること。また、作品制作に関しては、必要に応じて授業外の時間も活用すること。							
オフィスアワー	掲示等で確認のこと							